

インドネシア語における人称指示と定性

三宅良美

Referencing and definiteness in Indonesian

MIYAKE, Yoshimi

アブストラクト

オーストロネシア言語のひとつであるインドネシア語は、定冠詞などのデフィニット・マーカーがない。一方で、人称代名詞や demonstrative (指示語) がある。本論は、言語行動がどのように情報を伝えるかという問題 (cf. Lembrecht 1994) をインドネシア語のテキストにおいて、登場人物を指示もしくは定義するときの形態に焦点をあてて考察するものである。この研究によると、インドネシア語の文章の人称指示には次の特徴がある。

一度個人が紹介された後にその人物を指示するときには、

1. その人物の名前の繰り返し
2. 人物が有名人の場合には、その名前を繰り返すか、その名前にさらに指示語をつける。
3. 人称代名詞を使う

この3つの方法が存在し、その頻度の高さは、1, 2, 3の順である。結論として、インドネシア語においては、人称代名詞はあまり好まれず、固有の名前の繰り返し、あるいはそれに指示語を付加した形が好まれる。

イントロダクション

インドネシア語ではどのように定性が表せるのか？インドネシア語における指示、参照、定義法には1. 定冠詞として機能しえる接尾辞の *-nya* の使用、2. 指示語の *ini* (近いもの) *itu* (*ini* の位置にあるものよりは遠いもの) を使用する2つの方法がある。

一方、人物の定性については、1. 上の2. にある指示語を、*orang* 人, *wanita* 女, *pria* おとこ, *anak* 子供, などにつけて名詞句 (例: *orang ini* この人, *wanita itu* その女性) をつくる方法 と、2. *dia/ia* 彼, 彼女などの3人称、さらに、3. その人物の個人名をくりかえす。あるいは、その個人名に敬称をつけて繰り返す (例: Mrs.A, Mr.B), または、その個人名にさらに指示語をつける。

本論では、下記のインタビュー記事を含むノンフィクション書などに基づき、この3つの人称法について考察するものである。

1. Kurniawan et al, 2013 *Pengakuan Algojo 1965: Investigasi Tempopo perihal pembantaian 1965*. Tempo Publishing.
2. Bobby, A. Pr. 2015 *Untold Story: Susi Pudjiastuti*:

Dari Laut ke Udara, Kembali ke Laut. Kompas.

3. Websites and talks with an Indonesian native speaker

1. 個人名

一度ある個人が紹介されるとその個人の個人名がテキストのなかで繰り返され続ける。次の例 (1) においては、人物 *Susi* は著名な漁業省大臣であるために、*Susi* が紹介されると、テキストは、*Susi* を繰り返す。例 (1) 参照。

(1) *Pengalamannya mulai dari jadi bakul ikan di kampung nelayan dan berhubungan dengan para nelayan, membuat Susi belajar dari kehidupan sehari-hari. Itu menjadi penting bagi Bu Susi untuk membantu mengatasi persoalan-persoalan dalam keseharian para nelayan.*

‘漁村での魚の行商人から始めて漁師たちと付き合った経験から始まって **Susi** は日々のことを学んだのだ。それは、**Mrs.Susi** が 漁師の日々の問題を解決するのに役立つ重要なこととなった。’

次のパラグラフでも個人名 *Susi* のみが繰り返され、

代名詞が一切使われていないことを注意されたい。

- (2) Dengan pesawatnya, **Susi** megekspor hasil laut dari nelayan Pulau Simeulue ke Hongkong, Jepang, dan sebagainya. Seperti di Pangandaran, **Susi** berani membeli hasil laut dengan harga tinggi dari nelayan. **Susi** tidak hanya menjadi pemburu untuk belaka tetapi juga memperhatikan masalah kesejahteraan nelayan. Tindakan ini membuat masyarakat Simeulue menempatkan **Susi** sebagai penyelamat bagi mereka.

Susi は、香港、日本などに Shimeulue 島の漁師の海産物を飛行機で輸出した。

(故郷の) パガンダランでのように、**Susi** は、漁師たちから海産物を敢えて高額で買った。**Susi** は、単に利益追求者だというだけではなく、漁民の健康問題にも注意を払った。このような行為から、Simeulue の社会は、**Susi** を彼らの救済者と思ったのである。

コンテキストが異なる次の例でもトピックの中心人物である Anwar の名前がやはり繰り返される。

- (3) Pengakuan jujur **Anwar** ini bisa membuat siapa saja terperangah. Ada “hiroisme” disitu. **Anwar** mengesankan dirinya penyelamat bangsa. Seorang algojo lain, seperti **Anwar**, menyatakan moralitas itu sesuatu yang relative.

‘この **Anwar** の正直な告白に、だれもがここには「ヒロイズム」がある、とあっけにとられた。**Anwar** は、自分自身のことを国民の保護者であると印象づけたのである。**Anwar** のようなもうひとりの殺し屋は、「モラル」とは相対的なものであると述べている。’

このように、インドネシア語のテキストにおいては、個人の名前の繰り返しがもっとも好まれる。とりわけ、その人物が重要な人物である場合、この頻度は極めて高い。次に、この個人名の繰り返しと、人称代名詞の使用とを比較しよう。

2. 人称代名詞の定性

個人名か、人称代名詞か、どちらがより多く使われるかを次に比較する。

インドネシア語の人称代名詞は次の通りである。ジェ

ンダーによる違いはない。

	一人称	2 人称	3 人称
単数	saya/aku	kamu/anda,etc.	dia/ia, beliau(deferential)
複数	kami(exclusive)	kalian	mereka
	kita(inclusive)		

2.1. 3 人称単数 *dia*

ひとつのパラグラフ内の最初の文に新情報としてある人物が紹介されると、その人物は 3 人称単数 *dia* で指示され続ける。

次のパラグラフ (4) において、anaphora の *dia* は Susi を指示している。

- (4) *Kehidupan Susi memang keras.*
life Susi indeed hard

Dia tidak melanjutkan SMA di SMA
dia NEG continue SMA LOC Senior High School

Negeri 1 Yogyakarta karena pilihannya sendiri.
National 1 Yogyakarta because of choice oneself

‘**Susi** の人生は確かに大変だった。彼女は、ジョグジャカルタの国立第一高等学校を修了していない。自分で（退学することを）選んだのだが。’

書かれた文章において、この 3 人称の *dia* はそれほど多くはみられないのだが、1 つのパラグラフにおいて *dia* が一度使われるとそれがそのパラグラフ内で繰り返されることが多い。言い換えれば、一度、ある人物が *dia* で指示されると、*dia* はこのパラグラフ内で有効となる。次のパラグラフ例 (5) も同様である。

- (5) *Bagi Susi, kondisi ini bukanlah halangan.*
For Susi condition this NEG. lah obstacle

Dia tidak takut berhadapan dengan preman
dia NEG afraid face with gang

yang garang sekali. pun.
REL. PRO. terrible once.even

Sebelum menjual ikan di Muara Angke dan Muara Baru,
before sell fish in Muara Angke and Muara Baru

Dia mencari kepala preman di sana.
She looked head gang in there

Dia dekati dan diajak bicara.
she approached and was asked talk

Hasilnya dagangan Susi tidak diganggu sama sekali.
result-DEF. business Susi NEG was-bothered at all

‘**Susi**にとって、この状況は問題ではなかった。**彼女**は恐ろしい暴力団に立ち向かうことをおそれなかった。Angke 湾と Baru 湾で魚を売る前に**彼女**がその地の暴力団のボスに会いに行くと、そこで話をしようと言われた。その結果、**Susi**の商売は決して妨害を受けることはなくなった。’

このパラグラフ例において、最後の文で個人名 Susi が回復されたのは、その前の文章に *kepala preman* ‘暴力団のボス’ という人物が紹介されたからである。このまま 3 人称 *dia* を使うと、*dia* は ‘暴力団のボス’ になる。

次のパラグラフ例（6）では最初の文で個人名が使われてのちは 3 人称 *dia* が繰り返される。

(6) Selain pekerja keras, **Susi** memiliki rasa ingin tahu yang besar. **Dia** ingin tahu semuanya. Dari proses pembelian, packing, hingga sampai proses pemasaran. **dia** maunya bekerja cepat. Kalau ada karyawan yang tidak sesuai dengan kemauannya, **dia** terjun sendiri. **Dia** tidak segan-segan turun tangan. Manakala **dia** anggap karyawan bekerja lambat, **dia** kan ambil alih.

‘一生懸命働くという人であることに加え、**Susi** は、知識欲が旺盛である。**彼女**はなんでも知りたがる。仕入れ、パッキングから市場のプロセスまで**彼女**は素早く仕事をしたいのだ。**彼女**の望むことにみあわない人がいると**彼女**は介入することを厭わない。仕事が遅い相手がいると**彼女**はあえてリードしてくる。

もうひとつの 3 人称 *ia* が使われているパラグラフ（7）を紹介する。

(7) Di Israel, pernah seorang aparat kamp konsentrasi Nazi bernama Adolf Eichmann diadili. **Ia** pelaku pembantaian ratusan orang Yahudi. **Ia** merasa tak bersalah karena——

‘イスラエルでは、かつてアドルフ・アイヒマンと

いうナチ強制収容所管理者が裁判にかけられた。**彼**は何十万人ものユダヤ人の壊滅に関わった。**彼**は——のため、過ちを犯しているとは感じなかった。’

この例では 3 人称 *ia* が使われている。*dia* と *ia* は交換可能ではあるが、ここではインドネシアの事象からは遠いアイヒマンという人物を指示するために、よりフォーマルな *ia* が使われたと考えられる。

一方、*dia* よりも短い *ia* は、関係代名詞に導かれる節に使われる。（8）と（9）の場合、*ia* の方が *dia* よりもより自然である。

(8) *Besok Raisa ulang tahun.*
tomorrow Raisa birthday
‘Tomorrow Raisa is having her birthday.’

Apa yang **ia** lakukan?
what that she do
‘What will she do?’

‘明日はライザの誕生日。**彼女**がするのは何なのだろうか。’

(9) *Begini saat ibu ketemu anak.nya*
this way moment mom meet her.child
yang **ia** buang 46 tahun lalu.
Whom she left 46 years ago
‘This was the moment mom met her child whom she left 46 years ago.’

‘これが、母親が 46 年前に捨てた我が子に会った瞬間だった。’

Susi という人物について論じているテキストにおいて、その Susi を指示する際の、個人名（敬称、指示語が付加されたものも含む）の使用と 3 人称代名詞の使用の頻度は次の表 1 の通りである。

Personal Name（個人名）	217
<i>dia, ia</i> （人称代名詞） <i>s/he</i>	53
合計	270

表 1 個人名の繰り返し vs 3 人称単数

下記の図1に見られるように、個人名の繰り返しが3人称による指示の2倍以上の頻度をしめる。

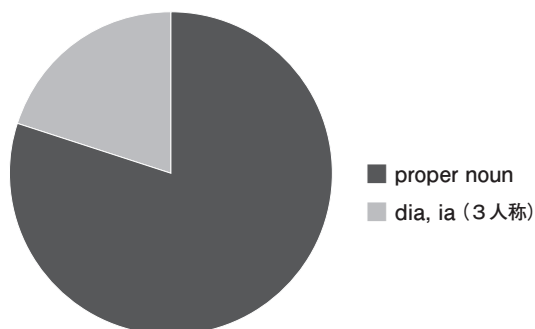


図1：個人名の繰り返しと3人称の使用頻度

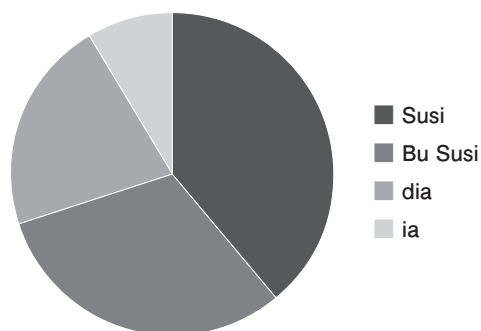
一方、下記の表2は、ひとりの話者がSusiという人物について語ったときに使われた個人名と人称の頻度を表している。

Referring form	# of frequency
1. <u>Susi</u> (個人名)	1
2. <u>ibu/bu Susi</u> 'Susi 夫人'	13
3. <u>mbak Susi</u> 'Susi 姉さん'	14
4. <u>dia</u> 彼女	7
5. <u>ia</u> 彼女	0
6. <u>beliau</u> 彼女 (敬称)	9
7. <u>beliau itu</u> その彼女	1
TOTAL	45

表2. ひとりの話者がSusiを指示するときに使用した個人名と人称

表2の1-3を個人名、4-7を3人称とまとめると、使用頻度の割合はやはり個人名使用頻度が3/4ほどになる。

一方、次の円グラフは、もうひとりの人物が、Susiの指示形態の頻度である。



個人名：28回 3人称：17回

図2：個人のヴァリエーション：個人名と人称代名詞による指示

(Referring to Susi by Sukarnoputri) (SukarnoputriによるSusiの指示法)

さらに、インドネシア語においては、個人名もしくは3人称の *dia* に指示語の *ini/itu* を付加した人称指示がある。(例： *Susi itu* 'そのSusi' *dia itu* 'その彼女') 個人名に指示語をつけるのは、単に anaphora としての指示というだけではなく、指示する対象への関心の集中、また、その人物の重要性の強調があると考えられる。

(13) *Susi itu maunya bekerja dengan cepat.*

Susi itu want.nya work with fast
'*Susi itu* is a person who wants to work fast.'

'そのSusiは、早く仕事をやりたい人なのだ。'

(14) *Sebagai kakak, Mbak Susi itu selalu melindungi adik-adiknya.*
as sister, *Mbak Susi itu* always protect younger siblings-DEF

'姉として、そのSusi 姉さんは、いつも弟妹たちをかばっていた。'

次の15, 16は、3人称にさらに指示語の *itu* 'その' を付加し、人物の重要性を表している。

(Referring to Anwar: アヌワルについて)

(15) *Dia itu suka joged.*

he *itu* like dancing
'*He itu* likes dancing.'

'その彼はダンスが好きだ。'

(16) (Referring to Susi)

Dia itu nggak mau sopir lambat.

3rd p.p. *itu* NGT want driver get late

'*She itu* does not want that the driver gets late'

(Susiについて)

'その彼女は運転手に遅れてきて欲しくない。'

(17) *Beliau itu sangat membantu rakyat kecil.*

3rd p.p. DEF. *itu* very help common people

'(EXALTED) she *itu* helps the common people very much.)

'その彼女 (敬称) は大変庶民の味方となった。'

3. Epithet (言い換え)

In interview articles, a substitutional epithet is rhetorically deployed with the use of *ini/itu*.

インドネシア語のインタビュー記事あるいは新聞記事などにおいては、個人あるいは特定の地域を指示するときは、長い関係代名詞節で言い換える。

- (18) *Sejak saya berhasil membunuh tokoh PKI guruh yang warok Ponorogo itu, oleh Gus Maksum saya diangkat...*

‘As I succeeded in killing the PKI figure, a curer and performer of Leok, in Ponorogo itu, by Gus Maksum I was promoted...’

‘私は、この Ponorogo の街の、治療者であり、かつ Leok の演者である共産党員を殺すことができたので、Gus Maksum の推薦で昇進した。’

この Epithet は、また、指示語の *ini* も付加され、個人名のみでなく、(19) と (20) の例にあるように、インドネシア以外の国の指示にも使われる。たとえば、日本について言及するときには「桜の国」と、オランダは「風車の国」と言い換える。この Epithet は定着している。

- (19) *Negara Sakura ini sudah banyak memproduksi robot untuk profesi tertentu.*

‘This Sakura country has already produced lots of robots for certain occupations.’

‘この桜の国は、特定の仕事のするロボットをすでに数多く生産している。’

- (20) *Negeri Kincir Angin yang satu ini tercatat memiliki akses kecepatan internet mencapai 14,2 Mbps, meningkat sebanyak 15 persen dibanding tahun sebelumnya.*

‘This windmill country is registered to have the internet which runs 14.2 Mbps, rising by 15 percent compared with the previous year.’

‘このひとつの風車の国は前年よりも 15 パーセントも早い 14.2Mbps の速度のインターネットがあると記録されている。’

4. 結語

インドネシア語においては人物の指示に最も頻繁に使われる形態はその個人名の繰り返しである。一方、本論では論じていないが、非生物の場合には、**名詞+指示語**が使われ、指示語が独立して使われることはほとんどない。指示語が独立して使われるのは、前述のディスコー

スを指示するときのみに留まる。

一方、インタビュー記事や新聞などでは、対象となる個人、場所、国などに繰り返し言及する際にはその固有名詞をつかわずに、代替表現を使う。この代替表現は、個人の場合、インタビューの内容や記事内容には直接関係のない事象（例：3 人の子供の母、7 人兄弟の末っ子、など）であり、場所、国などでは、誰でもが知っているクリシェである。（例：桜の国＝日本、風車の国＝オランダ）

一般に 3 人称単数とされる *dia* と *ia* は、人称のみではなく、話者の関心の焦点を表す。*dia* と *ia* の間には微妙な違いが見られるが基本的には二つは入れ替えが可能である。

この論文においては、インドネシア語においては、2 つの指示語や、3 人称、個人名、また、敬称・タイトルを組み合わせてことによって強調や話者の対象への姿勢、感情を表すことができることを示した。さらに、Epithet のセクションにおいては、言い換え+指示語によって、個人名や国名の繰り返しをあえて避け、付属的な情報を提供するインタビュー記事や新聞記事を紹介した。

本論は試論であり、まだ所有格や属格のポジションにある指示形態について論じることができていない。シンタックスの点からふたたび指示形態をみることによって、本論は発展することとなる。

References :

- Lambrecht, Knud. 1994. *Information structure and sentence form*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Miyake, Yoshimi 2013 Information structure in Javanese narratives, ILCAA, *Proceedings for the 1st International Symposium of Information Structure of Austronesian Languages*.
- Miyake, Yoshimi 2015 ‘Definiteness’ and referencing with *-nya*, *ini*, *itu*, and *dia/ia*. ISMIL, June, Jambi, Sumatra, Indonesia.